

# グローバル・アクティブ・ラーニング を導入した中等教育におけるESD 深化・拡充に関する研究

最終更新日：2016年8月18日

【プロジェクト代表者】  
社会科教育講座  
教授  
石丸 哲史

キーワード ・ グローバル ・ アクティブラーニング ・ 系統概念 ・ フェアトレード

## プロジェクトの内容（目的・方法・結果と意義）

本研究は、グローバルな視座のもとで中等教育においてアクティブ・ラーニングをどのように進めていくことが効果的であるか、教材論的視点と指導法的視点から調査・分析・考察を行い、グローバル舞台において「生きる力」を発揮できる子どもを育てる学習活動を具体化し、これに貢献するための教員養成課程における科目解析を視野に入れた研究を行うことを目的としました。その結果、以下の点が明らかになりました。

- ・中等教育教員になる上で必要となるグローバル関連と教科(分野)関連の認識向上ができた。
- ・デスクワークによってグローバルな視点で課題を捉えさせ、フィールドワークなどによってさまざまなローカル事象に密着させることによって、地域に内在する諸問題を析出し、その解決方法を思考させ提案する力を醸成できた。
- ・「地人相関論」を現場で考えさせることができた。
- ・系統概念の育成の重要性を強調することができた。
- ・FDへの貢献……「教科完結主義」から脱却し、教育的課題解決のために各専門分野教員がひとつの方向に向かうことによって、教師としての資質・能力向上を目指した学生教育に傾倒する効果
- ・構想に留めることなく具体的な提案をして全学に訴求するために、全学FD研修会にてフェアトレードに関するGALの成果を披露
- ・消費と環境との関係性、フェアトレードを通じたグローバル連関性
- ・事象認識に際して、各事象をグローバルという空間軸のもとで自然・人文・社会的事象を有機的に関連付ける能力を学生に対して育てることができた。

## 成果の応用可能性（私たちの活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。）

本成果は、ESDの深化・拡充のための知見を提供することができます。

本成果は、次期指導要領において強調されているESDの視点を教育課程に活かす方法を提示することができます。

## このプロジェクトの形成に寄与した制度等

## プロジェクト構成員（所属・職名・氏名・役割分担）

福岡教育大学・教授・唐澤重考・環境教育  
福岡教育大学・准教授・山田伸之・防災教育  
福岡教育大学・講師・奥谷めぐみ・消費者教育